

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地歴／歴史総合】

1. 対象 2年生

勉強に自信を持っている生徒は少ないが、学習意欲は非常に高い子が多いのが特徴である。前回までの学習で欧米列強の帝国主義について学んでいる状態である。

2. 単元名「日清戦争と華夷秩序の解体」（全3時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	学習指導要領に記載されている社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決するという観点から、日清戦争によって華夷秩序が解体され、東アジア諸国が列強の脅威にさらされながら近代国家を建設する必要性にせまられていった流れを歴史的流れに沿って理解することができる。
思考力，判断力，表現力等	学習指導要領に記載されている近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えるという観点から、資料「魚釣り遊び」から読み取れる世界の関わりや日本の思惑について考え、正しく表現することができる。
学びに向かう力，人間性等	学習指導要領に記載されている近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うという観点から、日清戦争における日本と清の考え、また東アジアの現状を理解しようとしている。

4. 本時の目標

日清戦争がなぜ起きたのかを理解する。

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

日清戦争はなぜ起きたのだろうか。

考えるための材料

材料：教科書、chromebook 資料「魚釣り遊び」

想定される活動：jamboard機能を使って資料から読みとれることを箇条書きで書き出す。
 （魚を釣ろうとしているのは日本と中国であること）（ロシアがその様子を見ていること）（それぞれの国はなぜ朝鮮を欲しがっているのか）など
 個人ワークで書き出したことをグループで共有する中でこの資料が示していることを考え出す。

想定される活動

jamboard機能を使って、まず資料から読み取れることを各自書き出す。その中で生徒が釣ろうとしている魚が朝鮮ということに気づき、魚を釣ろうとしている国がどこののか、それを見ているロシアは何を目論んでいるのかということに考えが発展し、この資料から清と日本は直接的に朝鮮を狙っているが、ロシアも間接的に朝鮮を狙っていたのではないかということに気づく。
 それぞれの国がどうして朝鮮を狙っているのかという点を考えだし、学習済みである帝国主義の考えを参考にしながら、答えを導き出す。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

対話方法：jamboard機能を使い、個人が気づいたことなどを発表し合う、グループワークを行う。
 対話や思考のプロセス：「魚釣りをしているのは日本と中国（清）かな」「魚にはCOREEと書かれているよ」「魚釣りをしている様子をロシアが見ているよ」「なぜロシアは直接魚釣りに参加しないのだろう」「日本も中国もロシアも朝鮮を狙っていたんじゃないかな」「なぜどの国も朝鮮が欲しかったのだろう」など

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

本時の問い：日清戦争がなぜ起きたのか⇒朝鮮を巡って日本と中国（清）が戦争をすることになった。日本も中国（清）も朝鮮を植民地にして欧米の動きに対応したいという思惑があった。
 新たな疑問：ロシアがみているけど、今後日本とロシアはどうなっていくのだろうか？